

水温情報

第3号 Ver.4

沖縄県水産試験場

901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号
 電話 098-994-3593・3597
 ファクシ 098-995-2357
 担当者 漁業室 下條 武
 e-mail:shmojotk@pref.okinawa.jp

沖縄県水産試験場は、調査船「図南丸」、耐久性大型浮魚礁「ニライ」及び、(株)有村産業の協力によりフェリー「飛龍21」で流れや水温を観測しています(フェリーによる観測は西海区水産研究所との共同研究です)。これらの水温観測の結果、最近、沖縄周辺海域が高水温となっていることが分かりました。1998年夏、沖縄周辺海域の水温は非常に高く推移しました。この結果、各地でサンゴの大規模な白化現象が起こりました。白化したサンゴの一部は回復しましたが、多くは死亡し、沖縄のサンゴ礁漁場に大きな被害をもたらしました。また、高水温は魚類養殖、クルマエビ養殖、海藻養殖にも大きな影響を及ぼし、パヤオで釣れたマグロの「ヤケ」現象にも影響したとされています。

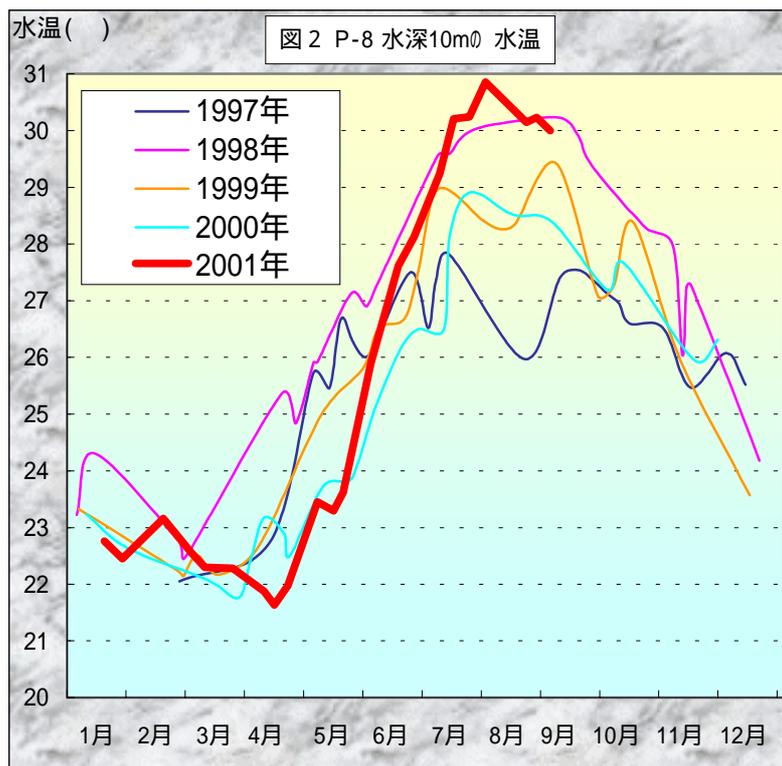
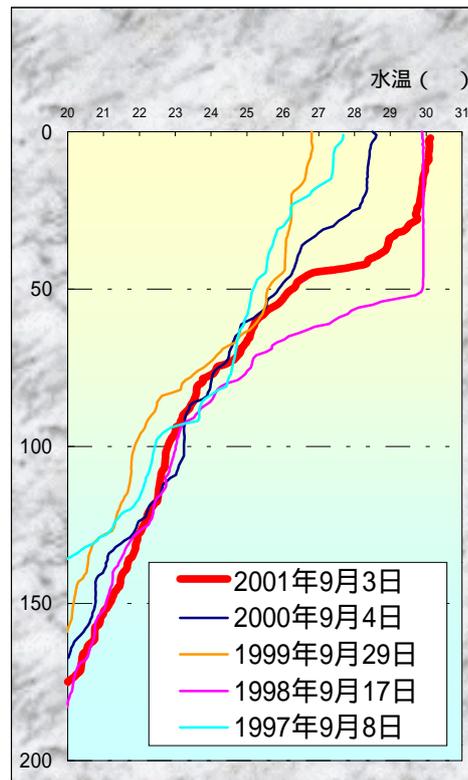
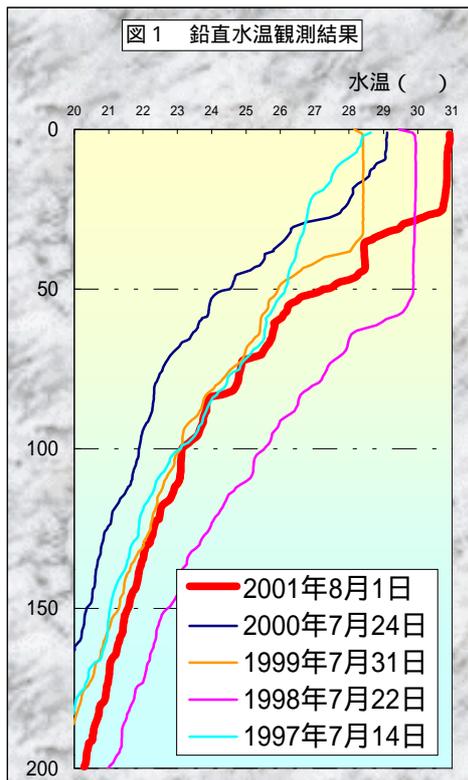
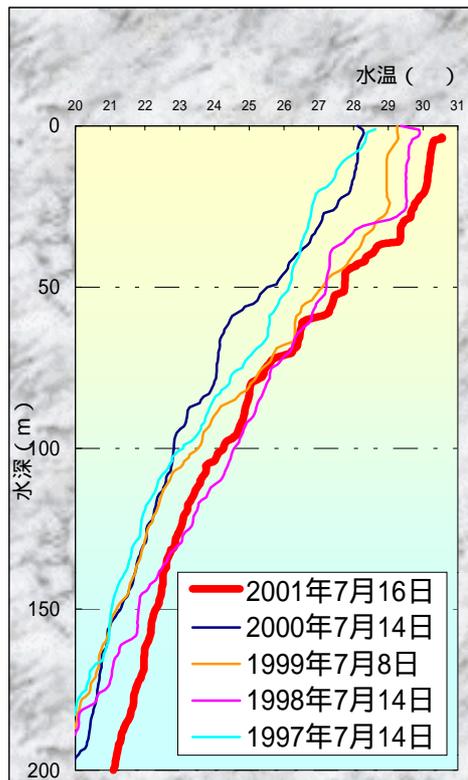
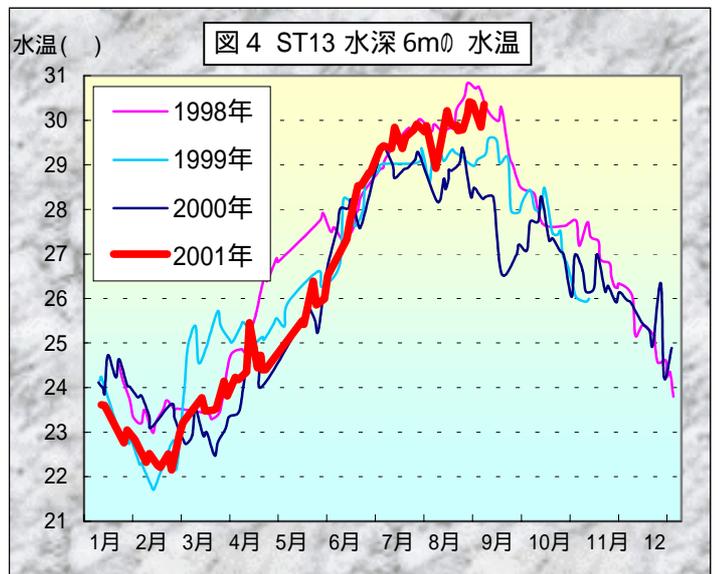
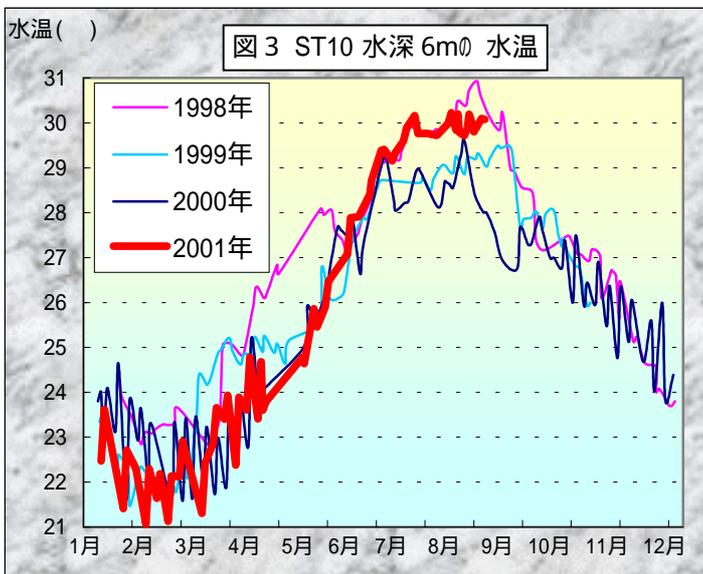


図1(上図)は、7月16日、8月1日及び、9月3日に調査船「図南丸」で行った、沖縄本島南観測点P-8(北緯25度58分、東経127度42.5分)における海面から水深200mまでの鉛直水温観測結果です。海面から水深25mまで、約30°Cという高水温が観測されており、これは過去4年間の同時期の状況と比較すると、サンゴの白化が問題となった、1998年と同水準もしくはそれ以上となっています。本年7月及び8月の大潮期に、沖縄本島で異常潮位が観測され、その原因として暖水渦が挙げられています。この暖水渦もP-8での高水温の原因の一つと考えられます。

図2(左図)は、P-8における水深10mの水温観測結果を過去5年間月日順に並べたものです。今年の水温は4月及び5月は例年より低かったのですが、6月以降急激に昇温しました。8月1日の観測では30.86°C(過去最高)、8月22日に30.15°C、8月27日に30.23°C、9月3日には30.00°Cを観測しました。



高水温は沖縄本島に限ったことではありません。図3、4は、フェリー「飛龍21」で行った宮古島北（ST10）及び、石垣島北（ST13）における水深6mの水温観測結果です。今年の1月から6月までは、過去4年と同じもしくは低い傾向を示しましたが、6月以降昇温し、1998年と同等の水準となりました。しかし、8月中旬以降1998年を下回っています。

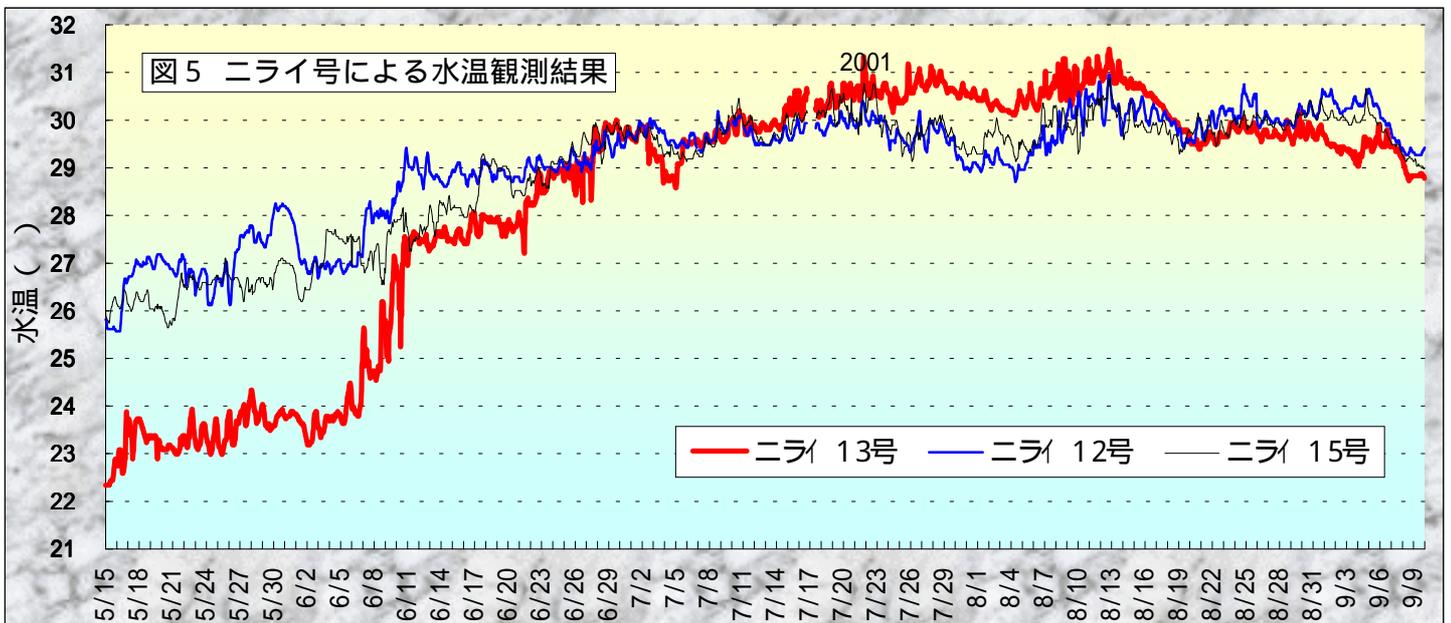
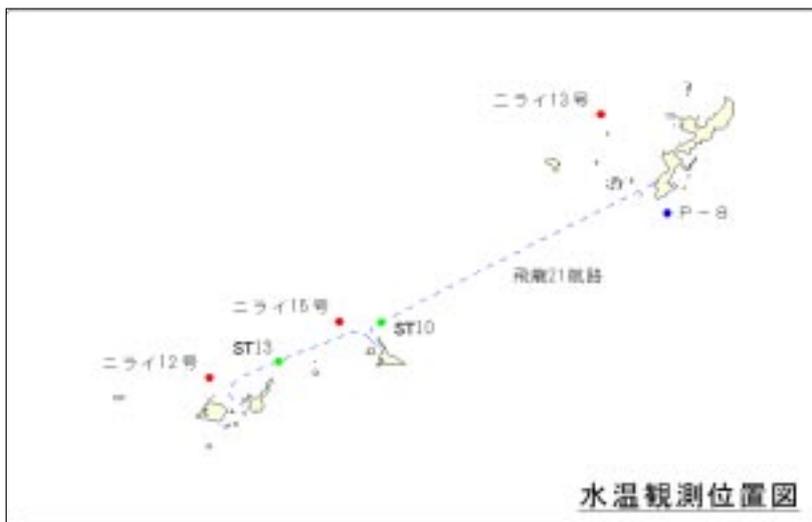


図5は、ニライ12号(石垣島北西)、13号(粟国島北)及び、15号(宮古島北西)における水深4mの水温観測結果です。ニライ13号(粟国島北)では、5月中旬から6月上旬まで石垣島北西や宮古島北西と比べ低い水温でしたが、6月中旬以降水温は急激に上昇し、8月中旬頃まで現在高い水準で推移しました。沖縄本島南部だけでなく、沖縄本島西部海域も高水温となっていました。8月中旬以降、29 から30 度を推移しています。



1998年は台風の接近が極端に少なく、このことが高水温の一因となりました。1997年と1999年夏に沖縄本島に台風が接近した前後のP-8の水温は、水深50m程度まで水温が下がることが、これまでの観測で分かっています。今年接近した台風は、5月中旬の1号と、9月7日から9日にかけて本島に上陸した16号の2個です。ニライ号の観測では、台風16号の攪拌によるものと考えられる水温の降温が多少みられますが、今年は高水温がしばらく続く可能性も高いので、養殖漁家の方々は十分注意して下さい。あわせて、異常潮位による漁船の破損にもご注意下さい。